

セーリング競技ガイド

パリ2024オリンピック セーリング競技を応援しよう!

MAARSVILLE 2024

ライバル艇だけでなく、自然をも相手にする競技

帆(セール)に受けた風を推進力として競うセーリング競技。オリンピック種目には一人または二人乗りの小型艇のほか、同じ原理で進むウィンドサーフィンやカイトボードも含まれます。レースは決められたコースをいかに早く回るかという

点ではシンプルですが、風や波といった刻一刻と変わる自然環境を予測しながら戦略をたて、ライバルに勝つ必要があります。頭と体の両方を使わなければならないのが、セーリング競技の醍醐味です。

マーク付近は大混戦! 他艇との攻防でペナルティになることも

セーリング競技はレース艇同士の駆け引きも見どころの一つです。例えば、自分の風上に別の艇がいると風がさえぎられてスピードが遅くなるので、他艇をじゃましたり、またじゃまされないようにしたりとコース取り考える必要があります。また、レース中に衝突しそうになった場合は、決められたルールに則って退避行動を取らなければなりません。レース艇がたくさん集まるスタートの時や、マーク回航の時には位置取りの攻防が激しくなります。ルールに違反した場合はペナルティが科せられ、プロテスト(抗議)されて失格になる場合もあります。

得点が少ないほうが勝ち! フィニッシュするまで 気が抜けない

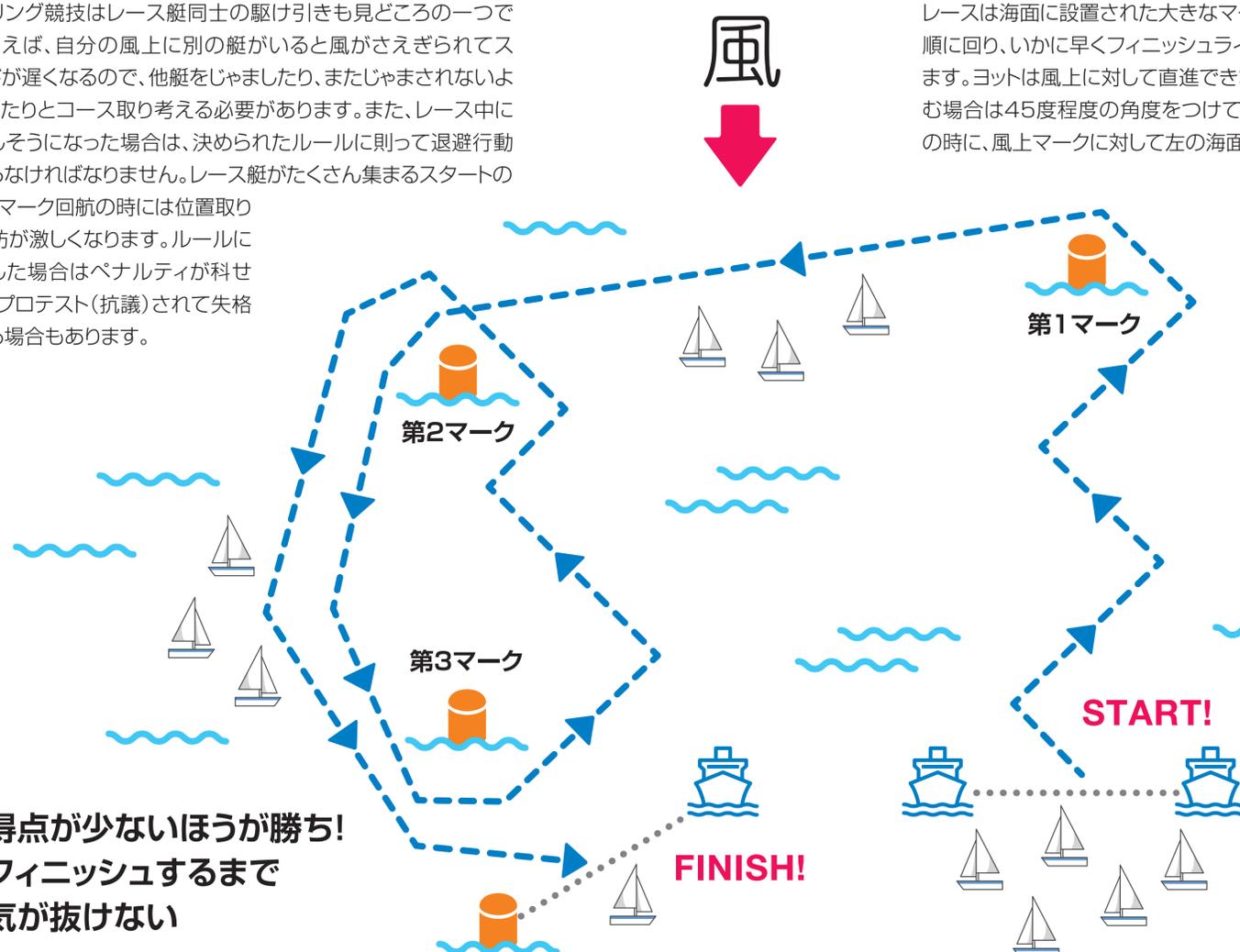
レースの順位はスタート同様、2隻の運営ボートで挟まれた仮想のフィニッシュラインを横切ることで確定します。接戦の場合、フィニッシュラインの右側を狙うのか、左側を狙うのかで順位が変わることがあり、また水中翼を搭載し、船体やボードを水面に浮かせて走る艇種では、操船ミスで着水すると急激に失速して一気に後続艇に抜かれてしまうという悲劇も起きかねません。沈(船がひっくり返ること)をしても大きく順位を落とします。風が強い時も弱い時も、たとえリードしていたとしても、最後まで気が抜けない戦いが続きます。オリンピックでは順位=得点となり(1位=1点、2位=2点)、点数が少ないほうが上位となる低得点方式を採用しています。

風を読む力が大事! ジグザグに走って風上マークへ

レースは海面に設置された大きなマーク(ブイ)を決められた順に回り、いかに早くフィニッシュラインを通過するかを争います。ヨットは風上に対して直進できないため、風上方向に進む場合は45度程度の角度をつけてジグザグに進みます。この時に、風上マークに対して左の海面に向かうか、右の海面に向かうかで勝敗が左右されることがあります。それは場所によって風の強さや風向が変化するためです。選手は刻々と変わる風や波、潮流や雲の動きなど、さまざまな自然の変化を観察しながら状況に合わせて常に艇をコントロールし、レースを行っています。

見えないスタートライン! 戦いはスタートの 5分前から始まる

オリンピックではレースのスタート5分前からカウントダウンが始まります。レース艇は2隻の運営ボートで挟まれた仮想のスタートラインを切ってスタートしますが、スタート時刻よりも前に通過してしまうと、リコール(フライング)となります。リコール艇には適用されるルールによって異なるペナルティが与えられますが、即失格となってしまうこともあれば、スタートラインに戻ればレースを続行できる場合もあります。いずれにせよ見えないスタートラインを見極め、ジャストタイミングでスタートすることが序盤でリードを奪うためには重要です。



えっ、/ レース中にコースが変わる!?

スタート後に風向が変わった場合には、レース中であってもマークの位置を変更することがあります。その場合、トップ艇が次ぎに目指すマーク以降を移動させ、運営ボートにフラッグを掲揚し、音響信号で合図します。またレースの途中で風がなくなったり、極端な風向の変化があったりした場合はスタート後であってもやり直しになることがあります。

はあ、/ 時間どおりに始まらない…!

風がないとヨットは進まず、セーリング競技は成立しません。風が非常に弱い時や無風の時、風軸が安定しないなどには、風が吹き出すまで陸上で待機することがしばしばあります。また反対に荒天の時にはレースが順延されることもあります。そのため競技は複数日行われ、オリンピックなどの大会日程には予備日が設けられています。

なに、/ フィニッシュ後に順位が変わる!?

セーリング競技も他競技と同じようにルール違反にはペナルティが科せられますが、レースエリアが広く、審判の目が届かないこともあるため、レース後に他艇に対してプロテスト(抗議)を出すことが認められています。プロテストされた選手は陸上での審問で潔白を証明しなければならず、負けるとペナルティを受け順位が変動します。